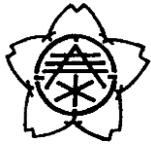


さいたま市立泰平小学校



学校だより

児童数：619名（男：342名 女：277名）

第553号 令和6年12月24日 発行

〒331-0801 さいたま市北区今羽町628

TEL 048-651-5637

FAX 048-651-4831

12月号

・ホームページ <http://taihei-e.saitama-city.ed.jp/>

・Eメール

学校教育目標 ◎かしこく ◎なかよく ◎たくましく ◎心ゆたかに

巳年へ
バトンタッチ

始めなければ 始まらない



校長 戸野塚 晃

冬の足音が近づいてきました。落ち葉が校庭にもロータリーにも絨毯のように敷き詰められています。私が幼いころは、落ち葉であっても冬の間はいろいろな活用のされ方をしていたと記憶しています。同年代の方でしたらすぐにイメージするのは、焼き芋でしょうか。他にも、堆肥、小動物の住処、子どもの簡単な遊びの材料等々いろいろなものに有効利用されていました。それを踏まえて右の写真をご覧ください。プール裏のおれんじ学級の畑の畝にきれいに落ち葉が敷き詰められています。本校の用務員が、堆肥や雑草防除、地熱効果等のために少しずつ取り組んでくれました。収穫が待ち遠しいです。



さて、先日11月29日（金）に6年生の未来くる先生ふれ愛事業として、ブラインドサッカー日本代表の加藤健人選手に来校していただきました。アイマスクをした状態で、鮮やかなドリブルやパスやトラップなどを見せていただく度に、子どもたちから歓声とどよめきが起こりました。写真記録だけのつもりで参加していた私も、体育館のその盛り上がりで心が躍り、スーツ姿のまま子どもたちと一緒に授業に参加することにしました。アイマスクを着用して、いざフロアに立つと緊張感と恐怖心が合わさったような何ともいえない感覚が自分の中に芽生えました。この状態の中で、加藤選手は相手とボールを奪い合い、ゴールを狙うという競技に参加しているのかと思うと、その心の強さと改めてここにたどり着くまでに超えてきたいろんな思いを聞いてみたくくなりました。以下、加藤選手が子どもたちに話して下さった内容です。

加藤選手のお話

「始めなければ 始まらない」

ブラインドサッカーを始めてから大切にしている言葉があります。それは「始めなければ 始まらない」という言葉です。みなさんも何か物事を始める前に、できるかできないか考えてしまい、あきらめたりした経験ってありませんか。私は、視力が落ちていく中で、この先何もできなくなるのではないかと感じていました。勉強もスポーツも就職も結婚も、何もかもが自分にはできなくなると感じていました。家に引きこもり、なかなか一步を踏み出せずにいました。そこでブラインドサッカーに出会いました。～中略～ 実際にやってみるとできることがたくさんあることに気がつきます。できなくて、「はい、終わり」ではなく、少し工夫したらできることもたくさんあるんです。～中略～ 結果だけでなくやってみたことが大事なんじゃないかと思うんです。

～以下略～

おそらく加藤選手も初めから何でもできたわけではないはずですが、たくさんの出会いや経験を積み重ねて行く中で「始めなければ 始まらない」のスピリットが強くなっていったと感じています。これは決してスポーツの世界に限ることではないはずですが、新年を迎えるにあたり、多くの場面で新たな目標を立てる機会が多い時期です。学習でも趣味でも、できるかできないかはさておき、まずは「始めなければ 始まらない」の思いを心の片隅に残しつつ、ご家族みなさんと新たな年を迎えていただければ幸いです。

そして、地域、保護者の皆様、今年もたくさんの学習活動、行事等様々な面でご支援、ご協力いただき誠にありがとうございました。感謝申し上げます。児童の健康、体力向上、そして、学校での教育活動の

充実も含めまして、地域、保護者の皆様の引き続きのご支援、ご協力をよろしくお願い致します。
皆様、良い年をお迎えください。